

## 現行計画の評価(概要)と改定に向けた重点課題

## ■ 現行計画の概要



- 現行計画の方針（分野）ごとに、基礎調査、区民意向把握をふまえて現行計画を評価し、改定に向けた改定に向けた重点課題を整理しました。

## 第1回検討委員会・推進委員会で議論

## 社会情勢等など区を取り巻く環境の変化

- ・人口動態の変化
- ・DX・GXの推進
- ・ウォーカブルなまちづくりの進展
- ・エリアマネジメントなどのソフトまちづくりの進展
- ・港区内外のまちづくりの進展
- ・20年後を見据えたトレンド・未来予測など

## 改定に当たっての視点

- ・まちづくりの分野ごとに視点を整理
- ・分野横断的に取組むべきテーマ(案)など

## 基礎調査

(令和7年4月～9月)

平成29年3月の現行計画策定後、港区のまちづくりがどのように進んだのか、マスターplanの分野別に現況を調査・整理。

- ・上位計画、関連計画
- ・人口動態
- ・土地利用現況
- ・住宅関連の状況
- ・道路・交通の状況
- ・みどりの実態 等

## 区民意向把握

- **区民アンケート**  
(令和7年7月)

現行マスターplanに基づき進められてきた区のまちづくりについて、区民の印象等を調査。

- **区民意見交換**  
(令和7年7月中下旬)

区民目線の地域の魅力・地域が抱える課題等を把握するため、地区別(6地区)に開催。

- **子どもアンケート**  
(令和7年9月～10月)

区立中学生と区内にある高校の生徒を対象に印象等を調査。

## 現行計画の評価

平成29年3月の現行計画策定後の港区のまちづくりを総括し、これまでの成果を定量的かつ定性的に評価。

## 評価方法

## ●取組状況

- ・10年間のまちづくりに関する取組状況の進捗把握・考察
- ・まちづくりに関する取組事例の把握

## ●区民意向把握

- ・区民アンケートを通した取組に対する満足度・重要度の把握
- ・意見交換会を通した地域の課題把握

## ●基礎調査データの定量的な分析

- ・マスターplanの分野ごとにおける基礎データの収取・把握

## ●市街地再開発事業の事後評価のフィードバック(※)

(※)…再開発事業により整備した「公共施設」や「建築物や建築敷地」の事業効果等を確認及び評価し、得られた知見を新たな再開発事業の指導にフィードバックできるようにするために、区は「港区市街地再開発事業に係る事後評価」を行うことを現行マスターplanに記載しており、平成29年度から実施している。そのため、事後評価における改善すべき事項を各方針に記載した。

## 改定に向けた重点課題

上記の基礎調査、区民意向把握を踏まえた現行計画の評価、また港区を取り巻く社会情勢や改定に向けた視点に基づき、マスターplan改定に当たっての重点課題を整理。





## 方針3

道路  
・  
交通

## ■取組の方向性

- (1) 公共交通ネットワークの整備と交通結節点の利便性向上★
- (2) 道路ネットワークの整備と交通の円滑化★
- (3) 快適に楽しく歩ける環境の整備★

## ■総括

- BRTの整備・運行や新駅の開業など、区内の公共交通ネットワークの充実が進んでいる。加えて、鉄道駅と街をつなぐデッキや地下通路、駅前広場などの整備が進み、交通結節点としての機能・利便性が向上した。これらの取組に対して、区民の満足度は高く、公共交通の利便性向上に寄与していることが確認されている。一方で、今後はMaaSなど複合的な交通モードの普及が想定されるため、引き続き交通結節点の利便性向上を推進する必要がある。また、通勤目的を主とした舟運の取組も始まっているが、現時点では十分に普及しているとは言えず、今後の利用促進に向けた検討が求められる。
- 都市計画道路の計画的な整備に加えて、自動車通行空間やシェアリングポートの設置が進み、円滑な道路空間の整備が進展した。駅付近では区営自転車等駐車場の整備のほか、開発を契機とした民設民営の駐輪場の整備や、企業と協定を締結し敷地内を開放する形での駐輪場整備を行い、自転車等の放置禁止区域を指定し、駅周辺の放置自転車の台数は大幅に減少した。
- 駅を中心とした都市開発の進展に伴い、電線類の地中化や高低差に対応したデッキ整備など、歩きやすい歩行空間の整備が進んでいるが、区内全域には至っておらず、引き続き、誰もが快適に歩ける歩行空間の整備が求められる。

## (1)公共交通ネットワークの整備と交通結節点の利便性向上

当該方針に沿った取組を実施している地区

取組事例

駅を中心とした駅前広場の整備(虎ノ門一・二丁目地区)

駅を結ぶ地下通路の整備(虎ノ門ヒルズ駅-虎ノ門駅間)

新駅の整備 虎ノ門ヒルズ駅

高輪ゲートウェイ駅

関東における路線バスの減便・廃止の要因

取組状況

アンケート

## 近年の動向

## 意見交換会

## (2)道路ネットワークの整備と交通の円滑化

取組状況

都市計画道路完成率

前回値	最新値
71% (H29年3月)	72% (R6年3月)

自転車通行空間の整備実績(区道延長)(累計)

前回値	最新値
17.6km (H29年末)	倍増 33.8km (R6年3月)

取組事例

自転車通行空間(青色矢羽根型路面標示)

シェアリングポートの設置件数

前回値	最新値
63か所 (H29年4月)	約3倍増 190か所 (R7年4月)

自転車等放置台数

前回値	最新値
1,604台 (H28年10月31日)	半減 711台 (R5年10月31日)

## (3)快適に楽しく歩ける環境の整備

取組状況

電線類地中化の整備状況(延長と地中化率)

前回値	最新値
約47km 約21% (H29年3月)	増 約57km 約26% (R6年度)

取組事例

バリアフリー法に基づく重点整備地区数

前回値	最新値
5地区 (H29年度)	7地区 (R6年度)

楽しく歩ける環境整備 芝浦一丁目地区

高低差に配慮した歩行者ネットワーク 三田三・四丁目地区

## 方針4

緑  
・  
水

## ■取組の方向性

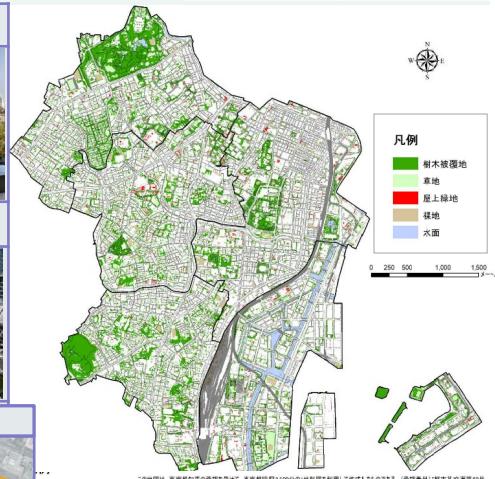
- (1) 都市の基盤となる緑と水のネットワークの形成★
- (2) 生物多様性に資する自然回復の場づくり★
- (3) 緑と水の魅力をいかしたにぎわいの場の創出★
- (4) 災害時に機能を発揮する緑と水
- (5) 緑と水による景観の継承と創造

## ■総括

- 区内の緑被率は増加し、大規模開発と連動した緑地整備や屋上・壁面緑化の事例も増えている。一方で、人口増加の影響により、区民一人あたりの公園面積は減少しており、十分な緑の確保に対する満足度もやや低い。こうした状況を踏まえ、引き続き緑化の推進が求められる。
- 民有地では、生物多様性の認証事例や保護樹木が増加し、生物に配慮した空間整備が進んでいる。一方で、区内全体として十分なエコロジーネットワークが形成されているとは言いがたく、自然回復の場づくりを含めた生物多様性の保全・再生に向けた取組のさらなる推進が必要である。
- 水辺を生かしたまちづくりや、地域コミュニティによる水辺でのイベントの実施が進んでいる一方で、水と触れ合えるにぎわい空間の充実に対する区民の不満は高い。特に、運河沿いや古川沿いの水辺空間の利活用については、魅力あるまちづくりの視点から、さらなる取組の推進が求められる。

## (1) 都市の基盤となる緑と水のネットワークの形成

区内の緑地等の整備状況	
区民一人あたりの公園等面積	屋上緑化面積
前回値	最新値
4.26m <sup>2</sup> /人 (H28年度)	4.13m <sup>2</sup> /人 (R3年度)
176,695.3m <sup>2</sup> (H28年度)	増 221,579.6m <sup>2</sup> (R3年度)
前回値	最新値
6,170m <sup>2</sup> (H28年度)	倍増 11,242m <sup>2</sup> (R3年度)



## (2) 生物多様性に資する自然回復の場づくり

取組状況	民有地において生物多様性の認証(ABINC、JHEP)を受けた件数(累計)
前回値	増 7件 (R2年度)
最新値	7件 (R6年度)

取組状況	保護樹木の本数と保護樹木の面積
前回値	最新値
663本 109,786m <sup>2</sup> (H30年度)	735本 106,787m <sup>2</sup> (R7年3月)

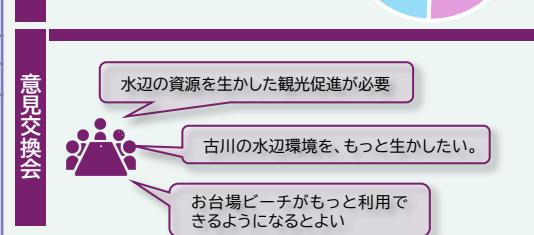
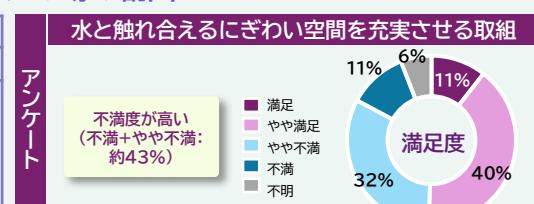
取組事例	生きものに配慮した施設の整備
芝浜小学校のビオトープ	竹芝干潟
芝浦公園にある池で生きものの育成や植物の栽培を行い、ビオトープとして整備	多様な生きものが生息できる連続的な環境の保全・再生を目指し、干潟を造成
事業事後開発	緑のネットワーク網と生物多様性に関すること
緑のネットワーク網の充実を図るために、開発による緑地の整備を推進するとともに、生物多様性に資する自然回復の場づくりが重要	

## (3) 緑と水の魅力をいかしたにぎわいの場の創出

取組事例	水辺に向けたまちづくり
ウォーターズ竹芝	ハーバー芝浦

取組事例	水辺で実施している地域コミュニティイベント
竹芝夏ふえす	芝浦運河まつり

取組事例	インクルーシブ公園 我善坊横川省三記念公園
	インクルーシブ設計を重視し、障害の有無に関わらず誰もが分け隔てなく遊べる空間として、区内初のインクルーシブ公園として整備



## 方針5

防災  
復興

## ■取組の方向性

- (1) 市街地の安全性・防災性の向上と施設の適切な維持管理★
- (2) 災害時の都市機能の早期回復マネジメント★
- (3) 速やかでしなやかな回復力をもったコミュニティづくり★
- (4) 災害発生後の中長期的な都市の復興まちづくり
- (5) 都市型水害、津波などに強い市街地の形成★

## ■総括

- 街区再編の増加等による市街地の安全性の向上と、細街路整備等による防災性の向上に関する取組は進展しているが、区民アンケートで災害に強いまちづくりを進める取組を重視する声がかなり多く、更なる推進が必要である。
- 災害時の都市機能の早期回復マネジメントに関する取組は、帰宅困難者対策に関する協定締結団体数や安全確保計画等の取組が進展しているが、開発により昼間人口の増加が想定され、継続的に取り組んでいく必要がある。
- 回復力をもったコミュニティづくりに関しては、共同住宅防災組織の結成数の取組が進展したが、区民意見では地域防災力向上の取組の重要度は高いものの防災の地域活動への参加率は低く、地域コミュニティ減少を危惧する声がある。また、築40年以上の高経年マンションが23区内でも多く、さらに今後も増えることが見込まれ、マンション建替えや耐震改修の支援が課題である。
- 都市型水害等に強いまちづくりを進める取組については、区民意見において取組の重要度がかなり高く、近年、局地的な集中豪雨が増えていることや、古川について護岸整備の未整備区間があることも含め、重点的な課題である。

## (1)市街地の安全性・防災性の向上と施設の適切な維持管理

街区再編により安全性を向上させた地区		
前回値	増	最新値
22件(H29年3月)	増	37件(R7年10月)



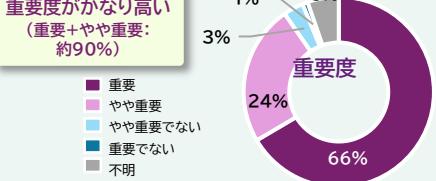
## 取組状況

## アンケート

## 細街路拡幅整備延長



## 設問:災害に強いまちづくりを進める取組



## (2)災害時の都市機能の早期回復マネジメント

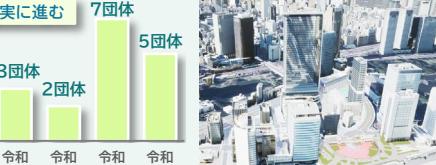
都市再生安全確保計画の策定件数		
前回値	増	最新値
1地域(H28年2月)	増	3地域(R7年8月)



## 取組状況

## アンケート

## 帰宅困難者対策に関する協定締結団体数



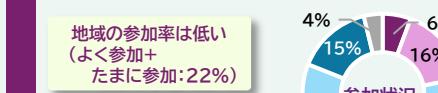
## プラトーを活用した帰宅困難者シミュレーション



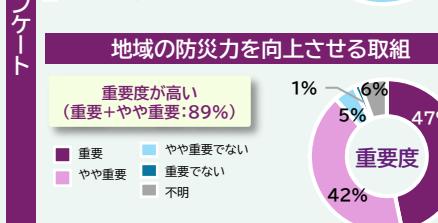
一時滞在施設の整備及び運用に関すること  
一時滞在施設の整備は災害時の駅前などの混乱対策に大きく寄与するが、地区内外の認知度は低く、災害時に有効に防災機能が発揮できるのか懸念がある。今後も引き続き駅前の帰宅困難者対策を推進するとともに、整備した防災施設について、より効果的な周知が重要。

## (3)速やかでしなやかな回復力をもったコミュニティづくり

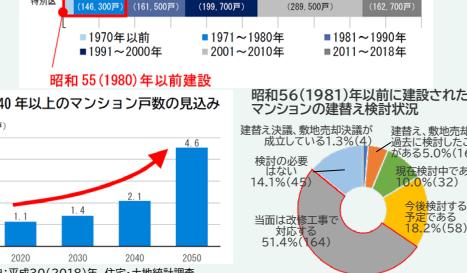
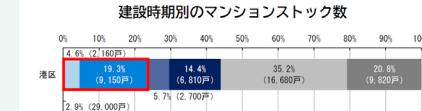
## 防災に関する活動への参加状況



## 地域の防災力を向上させる取組



## 建設時期別のマンションストック数と築40年以上のマンション戸数の見込み



昭和55(1980)年以前建設

昭和56(1981)年以前建設されたマンションの建替え検討状況

建替・決議、敷地売却決議が成立している1.3%(4戸)

建替・決議、敷地売却決議が成立していない5.0%(16戸)

既存検討中である10.0%(32戸)

当面は改修工事で対応する18.2%(58戸)

今後検討する予定である14.1%(45戸)

出典:令和2(2020)年度港区賃貸マンション実態調査

## (5)都市型水害、津波などに強い市街地の形成



## 雨水の地下浸透量

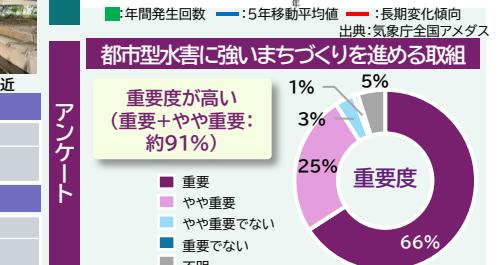


## 雨水の実質浸透域率



## 近年の気候変動

## アンケート



## 方針6

## 景観

## ■取組の方向性

- (1) 地形の特徴や地域資源などをいかした景観の形成★
- (2) まちの個性を感じる魅力ある街並みの形成★
- (3) 景観に対する意識の共有と地域主体のルールづくり★

## ■総括

- 区内には地域の魅力となるシンボル景観が多く立地しており、大規模開発に合わせて地域資源を活かした景観に配慮したまちづくりが進められている。一方で、運河沿いなどの親水空間を活用した魅力的な景観形成は十分とは言えず、今後は水辺を生かした景観づくりの推進が求められる。さらに、歴史的建造物などの保全に向けた仕組みづくり等の検討も必要である。
- 屋外広告物の事前協議や橋梁のライトアップ、電線類の地中化などにより、まちの個性を感じる魅力的な街並みの形成が進んでいる。一方で、既存の街並みや地域資源と調和した景観形成を重視する区民の声も多く、今後はこうした資源を活かした景観づくりのさらなる推進が必要である。
- 「区民景観セレクション」や「景観街づくり賞」など、景観形成に対する意識啓発の取組が進展している。また、地域に応じた景観ガイドラインなどの自主的な景観ルールを活用した事例も増えており、地域の個性を活かした景観のルール形成が広がりつつある。

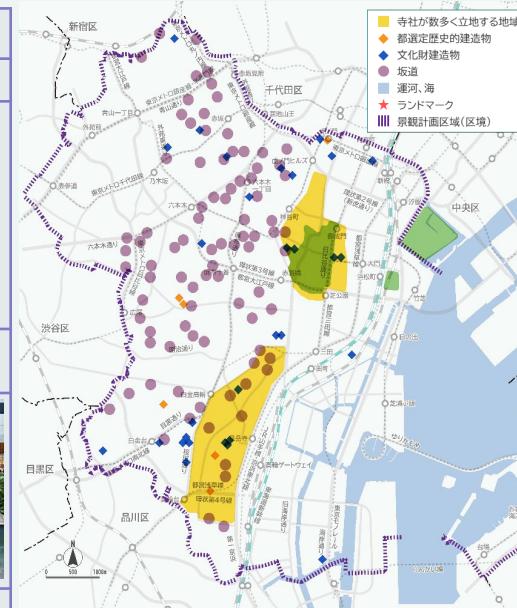
## (1) 地形の特徴や地域資源などをいかした景観の形成

地域資源を生かしたまちづくり  
景観上、古川との一体感に配慮した白金東部北地区

## 運河沿いにぎわい施設や人々が憩う広場を配置した芝浦一丁目地区



## 高輪築堤と一体となったまちづくりに取り組んでいる高輪ゲートウェイシティ

シンボル景観  
代表的なシンボル景観

## 運河沿い緑地の親水空間

運河沿い緑地を改修し、運河に顔を向けたハーバー芝浦



## 歴史的建造物等の保全

区内には、近代建築物等数多くの歴史的建造物が立地しており、これらの施設を後世に残していくために、区は令和7年度より、学識経験者も含めて、歴史的建造物を守る仕組みづくりの検討を進めている。



## (2) まちの個性を感じる魅力ある街並みの形成

## 屋外広告物の事前協議

「港区屋外広告物景観形成ガイドライン」の策定にともない、平成29年12月から屋外広告物の事前協議を実施している



## 芝浦港南地区で取り組んできた橋梁をライトアップした件数

前回値 増 最新値  
なし(H29年3月) 増 6件(R7年8月)



## 電線類地中化の整備状況(延長と地中化率)

前回値 最新値  
約47km 約57km  
約21% 約26%  
(H29年度末) (R6年度)



## 取組状況

## 設問:街並みに調和した景観を誘導する取組



歴史のある坂道が多く、歩くと趣がある  
寺社、高層建築、風情ある住宅街など、新しい街並みと古い街並みの共存が重要

アンケート  
意見交換会

## (3) 景観に対する意識の共有と地域主体のルールづくり

## 景観形成に対する意識啓発

## 区民景観セレクション

区民が誇り、愛着を持つ景観を募集・表彰することで、良好な景観の周知・共有を図るため、平成29年度に本制度を創設し、これまで79件の作品を選定・表彰した。



## 景観街づくり賞

良好な景観の形成に関して功績のあった民間の施設や活動を表彰することで、区民の景観に対する意識の向上を図るとともに魅力ある街づくりを推進するため、平成23年度に本制度を創設した。創設以降、毎年度、複数の景観街づくり賞を選定・表彰している。

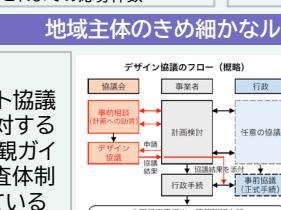


令和6年度  
景観街づくり賞

## 取組状況

## 自主景観ルールの策定事例

新虎通りエリアマネジメント協議会では、地元の景観形成に対する考え方をまとめ、「新虎通り景観ガイドライン」を策定し、自主審査体制によりデザイン協議を行っている



## デジタルサイネージを対象とした自主審査会

竹芝地区、麻布台ビルズ地下広場では、道路内のデジタルサイネージで掲出する広告を審査するための審査会を設置



竹芝地区

## 方針7

## 低炭素化

## ■取組の方向性

- (1) 先進技術の導入とエネルギーの効率的・面的な利用の促進★
- (2) 地球温暖化対策の推進★
- (3) 環境に配慮した交通環境の形成★

## ■総括

- 区内では、大規模開発に伴いエネルギー関連の先端技術の導入が進展している。さらに、区有施設のZEB化など、官民とともにエネルギーの効率化に資する取組が推進されている。今後は、ゼロカーボンシティの実現に向けて、低炭素化にとどまらず、脱炭素化に資する取組の一層の強化が求められる。
- 遮熱性舗装や「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」による国産木材の活用など、地球温暖化対策に関する取組は進展している。一方で、区内の二酸化炭素排出量は23区の中で最も多い。また、緑豊かなオープンスペースの誘導に対する区民の不満の声もあることから、脱炭素まちづくりの実現に向けて、より一層の温暖化対策の推進が必要である。
- 低炭素まちづくり計画に基づき、駐車機能の集約が進められているほか、自転車シェアリングの普及や環境に配慮したバス車両の導入も進展している。今後は、脱炭素まちづくりの実現に向けて、これらの取組のさらなる推進が必要である。

## (1)先進技術の導入とエネルギーの効率的・面的な利用の促進



取組状況

## 港区におけるゼロカーボンシティの実現に向けた取組

**ゼロカーボンシティの実現に向けた表明**  
港区は、令和3年2月に策定した港区環境基本計画において「2050年までに区内の温室効果ガスの排出実質ゼロ」を達成することを定めるとともに、令和3年3月にゼロカーボンシティの実現に向けて取り組むことを表明



**地球温暖化対策助成制度**  
港区では、家庭用燃料電池システム、太陽光発電システム、蓄電池システム等への助成を設けている。



**区有施設におけるZEB化**  
港区区有施設環境ガイドラインにより、区有施設のZEB化を推進



## (2)地球温暖化対策の推進



取組状況

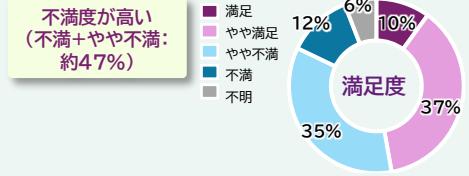
## (3)環境に配慮した交通環境の形成

駐車機能集約区域数及び集約駐車台数

取組状況	前回値	最新値
(制度施行前のためなし)	増	4地区 最大2,707台 (R7年7月)

取組事例

## みなとモデル二酸化炭素固定認証制度

建物の壁面緑化や  
緑豊かなオープンスペースの誘導

## 自転車シェアリングの利用回数(年)

取組状況	前回値	最新値
	1,101,935回 (H29年度)	増 2,819,970回 (R5年度)

## 環境にやさしい車両の導入



## 方針8

## ■取組の方向性

- (1) 国際都市にふさわしい環境整備★
- (2) 地域の資源の魅力向上★
- (3) 観光資源の活用とネットワーク化★
- (4) 多彩な文化に身近に親しめるまちづくり★

## 国際化・観光・文化

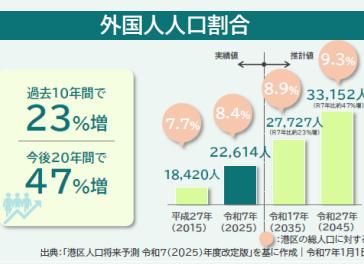
## (1)国際都市にふさわしい環境整備



## ■総括

- 国家戦略特区内でのプロジェクトやMICEの整備が進展している。公衆無線LAN設置数は目標値には達しておらず、継続的な推進が必要。外国人旅行者が増加している中で、受入時の懸念事項として「言葉の問題」が最も多く、まちづくりを通じた環境整備が求められている。
- エリアマネジメントの活動が進展しているが、イベント等に関する参加意向は高いものの参加状況が低いことや、アンケートでも取組重要度が高いことから、より多くの人を巻き込むことのできる地域の魅力向上への取組が必要である。
- 訪都外国人旅行者数が増えており、区内の外国人訪問場所も点在しているが、区内の歴史・文化資源が豊富にあるエリアについても観光資源として活用することで、更なる観光資源のネットワーク化に繋げることができる。観光インフォメーションセンターや案内標識の設置は、目標値に達していない項目もあるものの、一定程度進展しており、ネットワーク化には必要な取組であり、継続的な推進が必要である。
- 赤坂氷川山車の展示などを通じて、多彩な文化に身近に親しめるまちづくりが行われている。さらに誰もが身近に多様な文化芸術に触れあえる機会や環境を整えるべく文化芸術センターが新設予定であり、区民の期待に対してどのように活用していくかが今後の検討事項である。

## (2)地域の資源の魅力向上



## 取組事例

## 赤坂インテラシティAIR

地域に開かれた並木道に縁日風に屋台などを配置し、様々な人たちの交流を図り、これまで活用されていなかった公園空地で新しい地域の魅力を創出している。



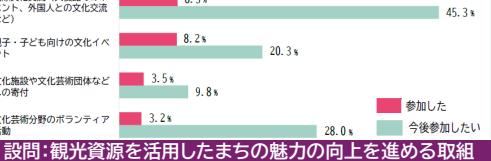
## 旧芝離宮庭園

旧芝離宮恩賜庭園のライトアップによるナイトタイムイベントを通じて、都心にありながら自然を感じられる公共の空間を活用した取組みを行っている。



## 意向把握アンケート

## 文化芸術に関する活動への参加状況と参加意向



## 設問: 観光資源を活用したまちの魅力の向上を進める取組



## (3)観光資源の活用とネットワーク化

## 観光インフォメーションセンター設置数

前回値 **5か所 (R2年度)** 最新値 **6か所 (R5年度)**

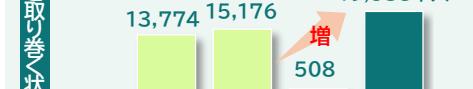
## 観光・街区案内標識の設置数(累計)

前回値 **190基 (H29年度)** 増 最新値 **216基 (R5年度)**

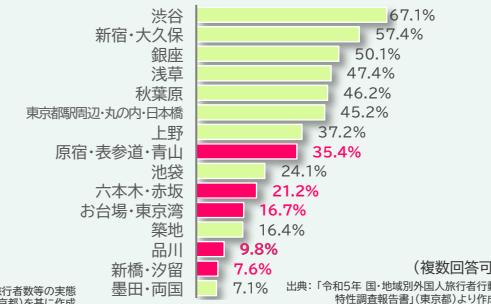
## 訪都外国人旅行者数

前回値 **13,774人 (平成29年)** 増 最新値 **15,176人 (平成31年)**

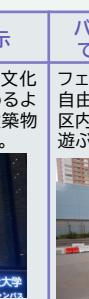
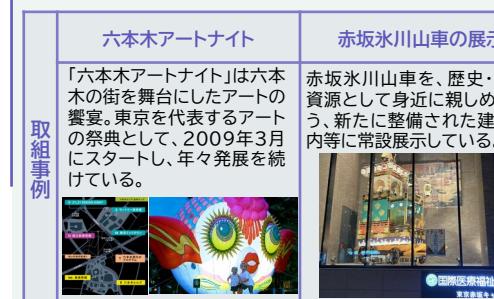
最新値 **19,538千人 (令和3年)** 増 **508人 (令和5年)**



## 外国人旅行者の都内訪問場所 上位15箇所



## (4)多彩な文化に身近に親しめるまちづくり



★ **成果** とは、現行計画の評価の結果、取組が進展している項目であり、改定マスタープランでも引き続き実施していくもの。

★ **課題** とは、現行計画の評価の結果、取組が不十分な項目、区民満足度が低い項目、基礎調査をふまえ新たな対応が必要な項目であり、改定マスタープランにて、解決策となる取組を実施していくもの。

### 土地利用・活用 良好的な生活環境と国際ビジネス拠点の形成の両立

#### —成果—

- ・地域特性に応じた計画的な開発事業の誘導
- ・街並み再生方針による建替えが進展
- ・個別の開発事業におけるにぎわい向上のためのまちづくり活動が進展

#### —課題—

- ・開発事業等の推進によりエリアマネジメントに関する個々の取組は進展したが、地区間の連携が図られていない
- ・港区の魅力である運河や海などの水辺の魅力を生かしたまちづくりが不十分

方針1

### 防災・復興 災害に強く回復力のあるまちの形成

#### —成果—

- ・市街地の安全性を確保するための街区再編の取組が進展
- ・細街路拡幅整備などの防災性の向上に資する取組が進展
- ・帰宅困難者対策に関する協定締結や安全確保計画の策定等の都市機能の早期回復マネジメントに係る取組が進展

#### —課題—

- ・増え続ける高経年マンションへの対応が求められる
- ・近年増加している局地的集中豪雨などの都市型水害の対策が必要

方針5

### 住宅・生活環境・地域コミュニティ・防犯

#### —成果—

- ・生活利便施設、子育て施設、高齢者・障害者支援施設の整備が進む
- ・日常の安全・安心を確保する環境整備が進みつつある

### 暮らしやすく健康に資する生活環境の形成

#### —課題—

- ・多様な世帯が安心して定住できるよう、更なる居住環境の充実と住宅セーフティネットの構築が求められる
- ・増加する高経年マンションの適切な維持管理が求められる

方針2

### 景観 豊富な景観資源と地域の個性が光る、誇りと愛着に満ちた街並みの形成

#### —成果—

- ・シンボル景観の形成、地域資源などを生かしたまちづくり、運河沿い緑地の親水空間の取組が進展
- ・屋外広告物の事前協議の取組、橋梁のライトアップ、電線類地中化が進展
- ・景観形成に対する意識啓発が進展、景観ルールづくりの事例の増加

#### —課題—

- ・区内に多く立地する歴史的建造物等を生かした魅力ある景観を形成するため、これらの保全が求められる

方針6

### 道路・交通 快適な道路・交通ネットワークの形成

#### —成果—

- ・公共交通ネットワークの整備が進み、交通結節点の利便性が向上
- ・自転車通行空間やシェアリングポートの整備が進み、自転車利用環境が向上
- ・都市計画道路の計画的な整備が進む
- ・快適に歩ける環境整備が進展

#### —課題—

- ・舟運については、通勤目的のルート運行開始などの取組が進められているものの、公共交通の一部としては十分に定着していない
- ・近年、全国的に路線バスの減便・廃止の要因として運転手不足が挙げられる

方針3

### 低炭素化 環境負荷の少ない都市の形成

#### —成果—

- ・エネルギーに係る先端技術の導入事例の増加、地球温暖化対策助成制度の運用、区有施設のZEB化、遮熱性等舗装、みなとモデル二酸化炭素固定認証制度運用の取組などが進展
- ・エコまち計画に基づく駐車機能集約、自転車シェアリング普及が進む

#### —課題—

- ・2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、様々な分野における脱炭素化の取組が必要

方針7

### 緑・水 緑と水の豊かなうおいの創出

#### —成果—

- ・大規模開発エリア等における緑化整備や緑のネットワーク化が進展
- ・民有地での生物多様性に係る取組事例が増加、保護樹木の指定拡充に向けた取組の進展

#### —課題—

- ・水と触れあえるにぎわい空間の創出やイベント開催など、水辺空間の活用は十分とは言えず、さらなる取組の推進が必要

方針4

### 国際化・観光・文化 まちの魅力の維持・向上と活用・発信

#### —成果—

- ・国際基準のビジネス拠点としての都市再生プロジェクトやMICEの整備が進展
- ・エリアマネジメント活動など、地域の魅力向上に資する取組が進展
- ・観光インフォメーションセンター設置などの観光ネットワーク化に資する取組が進みつつある

#### —課題—

- ・外国人観光客受入時の懸念事項として「言葉の問題」が最も高く、まちづくりを通じた環境整備が求められる
- ・歴史・文化資源は豊富にあるものの、観光資源としてとして魅力を高めることが必要
- ・子どもも含め、身近に多様な文化芸術にふれあえる機会や環境の整備が必要

方針8

## 改定に向けた重点課題

## ■ 改定に向けた方針別課題の整理

- ★   : 現行計画の評価を踏まえた主な課題 (P10に示す課題の再掲)
- ★   : 社会情勢等など区を取り巻く環境の変化+改定に向けた視点

<b>方針1</b> <b>土地利用・活用</b> 良好的な生活環境と国際ビジネス拠点の形成の両立	<ul style="list-style-type: none"> <li>開発事業等の推進によりエリアマネジメントに関する個々の取組は進展したが、地区間の連携が図られていない</li> <li>港区の魅力である運河や海などの水辺の魅力を生かしたまちづくりが不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>質の高い高次都市機能</li> <li>国家戦略特区整備後のソフトまちづくり</li> <li>まちの発展と環境負荷低減の両立</li> <li>まちづくりとしてのウェルビングへの対応</li> </ul>
	<b>方針2</b> <b>住宅・生活環境・地域コミュニティ・防犯</b> 暮らしやすく健康に資する生活環境の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な世帯が安心して定住できるよう、更なる居住環境の充実と住宅セーフティネットの構築が求められる</li> <li>増加する高経年マンションの適切な維持管理が求められる</li> </ul>
<b>方針3</b> <b>道路・交通</b> 快適な道路・交通ネットワークの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>舟運については、通勤目的のルート運行開始などの取組が進められているものの、公共交通の一部としては十分に定着していない</li> <li>近年、全国的に路線バスの減便・廃止の要因として運転手不足が挙げられる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な交通手段が想定される中で、DX化による都市空間の効率化が求められる</li> <li>次世代モビリティなどの新技術への対応</li> <li>ウォーカブルなまちづくりの進展</li> <li>リニア中央新幹線の開通や地下鉄新線の延伸</li> </ul>
	<b>方針4</b> <b>緑・水</b> 緑と水の豊かなうるおいの創出	<ul style="list-style-type: none"> <li>水と触れあえるにぎわい空間の創出やイベント開催など、水辺空間の活用は十分とは言えず、さらなる取組の推進が必要</li> </ul>
<b>方針5</b> <b>防災・復興</b> 災害に強く回復力のあるまちの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>増え続ける高経年マンションへの対応が求められる</li> <li>近年増加している局地的集中豪雨などの都市型水害の対策が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人手不足や様々な情報発信などに対応した防災のDX化が求められている</li> <li>老朽化しているインフラへの対応</li> <li>災害時における一律対応から個別ニーズへの転換</li> </ul>
	<b>方針6</b> <b>景観</b> 豊富な景観資源と地域の個性が光る、誇りと愛着に満ちた街並みの形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>区内に多く立地する歴史的建造物等を生かした魅力ある景観を形成するため、これらの保全が求められる</li> </ul>
<b>方針7</b> <b>低炭素化</b> 環境負荷の少ない都市の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、様々な分野における脱炭素化の取組が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウォーカブルによる脱炭素化</li> <li>リノベーションによる再生まちづくり</li> <li>都市の遮熱対策</li> <li>多様な働き方に対応したテレワークの推進</li> </ul>
	<b>方針8</b> <b>国際化・観光・文化</b> まちの魅力の維持・向上と活用・発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客受入時の懸念事項として「言葉の問題」が最も高く、まちづくりを通した環境整備が求められる</li> <li>歴史・文化資源は豊富にあるものの、観光資源として魅力を高めることが必要</li> <li>子どもも含め、身近に多様な文化芸術にふれあえる機会や環境の整備が必要</li> </ul>

重点課題を整理するための視点

早期の解決(緊急性)

将来への持続(継続性)

地域への波及効果

現行計画の評価により明らかとなった課題に加え、近年の社会情勢の変化を踏まえて抽出された課題について、緊急性、将来に向けた持続可能性、地域への波及効果などの観点から総合的に検討した結果、以下の5つの課題を、今後のまちづくりにおける重点課題として整理した。

①複雑化する都市課題への対応

②環境負荷の低減と快適な都市空間の両立

③自律的な地域運営と多様な主体の連携

④激甚化する災害への対応力の強化

⑤インクルーシブなまちづくりへの対応